

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

美濃焼のまち、魅力あるまちなかづくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

多治見市

3 地域再生計画の区域

多治見市の区域の一部（中心市街地エリア）

4 地域再生計画の目標

4－1 地方創生の実現における構造的な課題

中心市街地、特に商店街は空き店舗が目立ち、かつてのような賑わいがない。中心市街地を核としたコンパクトシティの形成のためには、多治見駅から商店街に向けて賑わいを面的につなげ、広げていく仕掛けが必要である。また、笠原町にモザイクタイルミュージアムが開館し、想定以上の観光客が来館しているが、郊外にあるため、中心市街地の活性化には波及しづらく、一部の飲食店では売り上げが上がってはいるものの、中心市街地の通行量は横ばいとなっている。

4－2 地方創生として目指す将来像

再開発事業や商店街への出店に関する事業の効果として見込まれる集客を活かし、中心市街地の活性化を図るもの。また、美濃焼のまちとして、多治見らしさが感じられるまちづくりを行い、観光客の増加や、居住者の満足度向上につなげたい。

- ①中心市街地への出店数が、現状年 8 店舗であるが、年 10 店舗まで増加させる。
- ②休日歩行者通行量を、4,858 人／日 から 5,143 人／日 まで増加させる。
- ③中心市街地内の居住人口を、8,310 人から 8,730 人まで増加させる。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分	H31 年度 増加分	H32 年度 増加分	H33 年度 増加分	H34 年度 増加分	KPI 増加 分の累計
--	----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	----------------

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
商店街への新規 出店数(営業店舗 数)	8	0	2	2	2	2	8
休日歩行者通行 量(休日9時～18時)	4,858	57	57	57	57	50	278
中心市街地内の 居住人口	8,310	84	84	84	84	84	420

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

駅南再開発による商業集積や住居への集客を、ペDESTリアンデッキから商店街、本町オリベストリートまで動線をつなげる。集客力のある商店の商店街への出店を促すビジネスプランコンテストの実施と、多治見市らしいまちづくりとして、駅前からながせ商店街につづくルートに美濃焼のタイルや看板(店名看板、トイレ貸します看板等)などを設置する。また、今年度実施の空き店舗改装による出店促進事業に伴い、集客力、回遊性を高め、商店街の魅力を再発見できるイベントを企画・実施し、まちの活性化を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金(内閣府):【A3007】

① 事業主体

多治見市

② 事業の名称: 美濃焼のまち、魅力あるまちなかづくり

③ 事業の内容

多治見ビジネスプランコンテスト事業

中心市街地の商店街への出店を促進し、集客力を強化するため、従来の中心市街地空き店舗対策である家賃補助制度を廃止し、(仮)多治見ビジネスプランコンテストを新規事業として実施。意欲のある出店者を全国から募る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

- ・既存の家賃補助制度の廃止に伴い、財源がシフトできる（家賃補助が3年間の補助制度であるため）
- ・出店促進や商店街の活性化により、駐車場会計の収益があがり、中心市街地活性化の財源となる。
- ・中心市街地における地価の上昇、各店舗の売上増。

【官民協働】

多治見まちづくり株式会社とともに事務局となり、中心市街地活性化基本計画を策定（認定無）。中心市街地活性化協議会を設置しており、多治見市、商工会議所、東濃信用金庫、十六銀行多治見支店、商店街振興組合、地域住民で組織し、中心市街地の活性化のために協議を行っている。

また、「き」業展、企業お見合い、ビジネスインキュベーター事業等、多治見市では商工会議所、東濃信用金庫との協働により進めてきた事業も多くある。今後の事業の実施についても同様に取り組んでいく。

【政策間連携】

中心市街地活性化基本計画をベースとし、多治見まちづくり株式会社の事業、市街地再開発事業、立地適正化計画等との連携を図る。

【地域間連携】

本事業計画は、多治見市の中心市街地活性化政策の一環であるため、他市との直接的な連携は困難であるが、ビジネスプランコンテスト事業や出店促進事業等については、市の経済の活性化により、既存の地方創生事業であるビジネスフェアや企業お見合い等の事業を活性化させることになり、市外への経済効果は見込めるため、これらの事業について積極的に連携を行う予定。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

- ・中心市街地への出店数が、現状年8店舗であるが、年10店舗まで増加させる。
- ・休日歩行者通行量を、4,858人／日 から 5,143人／日 まで増加させる。
- ・中心市街地内の居住人口を、8,310人から 8,730人まで増加させる。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
商店街への新規 出店数(営業店舗 数)	8	0	2	2	2	2	8
休日歩行者通行 量(休日9時～18時)	4,858	57	57	57	57	50	278
中心市街地内の 居住人口	8,310	84	84	84	84	84	420

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

中心市街地活性化基本計画（認定無）に位置付けられた事業であるため、中心市街地活性化協議会で進行管理を行う。

毎年度末に、多治見市及び多治見まちづくり株式会社により進捗状況を調査し、中心市街地活性化協議会において評価、進捗管理を行う。また、その評価をもとに市議会の全員協議会において報告、意見をいただく。

【外部組織の参画者】

中心市街地活性化協議会

【検証結果の公表の方法】

ホームページや SNS により公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第 5 条第 4 項第 1 号イに関する事業【A3007】

総事業費：28,360 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成 35 年 3 月 31 日（5 ヶ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

地方再生コンパクトシティに応募。社会資本整備総合交付金や民間街づくり活動支援・普及啓発事業と合わせて、ハード事業とソフト事業の連携、官民連携を行うことで、それぞれの事業の相乗効果を狙う。美濃焼デコレーション事業及び商店街プロモーション事業は市単独事業として実施予定。

(1) 美濃焼デコレーション事業

事業概要：多治見駅前に建設予定のペDESTリアンデッキから商店街に向けて美濃焼で景観をデザインし、多治見に訪れる観光客に多治見らしさをアピールする。モザイクタイルミュージアムへの観光客を中心市街地に呼び込むとともに、中心市街地の居住者の満足度向上にもつなげたい。

実施主体：多治見まちづくり株式会社

事業期間：平成30年度～平成34年度

(2) 商店街プロモーション事業

事業概要：出店促進事業の一環として、多治見まちづくり株式会社が手掛けている旧ワタナベ時計店のリノベーション事業が来年度中には終了し、新たな店舗が開店することとなる。新店舗に見込まれる集客に商店街の魅力を知ってもらい、商店街で過ごす時間を楽しんでもらえるようなイベントを多治見まちづくり株式会社が開催するもの。

実施主体：多治見まちづくり株式会社

事業期間：平成30年度～平成34年度

(3) 社会資本総合交付金関係事業

事業概要：多治見駅南市街地再開発事業の一環として、ペDESTリアンデッキを建設。

実施主体：多治見市

事業期間：平成28年度～平成32年度

(4) 民間まちづくり活動支援・普及啓発事業

事業概要：高気温対策のため、商店街にドライ型ミストを設置する他、空中スイカによる緑陰づくりに取り組む。また、中心市街地活性化事業として、ヤマカまなびパークにオープンカフェを開設する。

実施主体：多治見まちづくり株式会社

特定非営利活動法人 Mama's Cafe

事業期間：平成 30 年度～平成 32 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 35 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

【検証方法】

中心市街地活性化基本計画（認定無）に位置付けられた事業であるため、中心市街地活性化協議会で進行管理を行う。

毎年度末に、多治見市及び多治見まちづくり株式会社により進捗状況を調査し、中心市街地活性化協議会において評価、進捗管理を行う。また、その評価をもとに市議会の全員協議会において報告、意見をいただく。

【外部組織の参画者】

中心市街地活性化協議会

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
商店街への新規 出店数(営業店舗 数)	8	0	2	2	2	2	8
休日歩行者通行 量(休日9時～18時)	4,858	57	57	57	57	50	278

中心市街地内の 居住人口	8,310	84	84	84	84	84	420
-----------------	-------	----	----	----	----	----	-----

7－3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

ホームページや SNS により公表する。